

佐世地区振興計画



みどりあふれる中で
なごやかに暮らせる郷
佐世

佐世地区振興協議会

平成28年4月

もくじ

| | |
|--|---------|
| はじめに | 1 ページ |
| I 振興計画の趣旨 | 1 ページ |
| II 佐世地区の概況 | 2 ページ |
| 1. 位置・面積・地勢 | 2 ページ |
| 2. 「佐世」の由来 | 2 ページ |
| 3. 佐世地区の人口推移 | 3 ページ |
| 4. 地域生活の実態（アンケート結果から） | 3 ページ |
| III 佐世地域の課題 | 4～5 ページ |
| IV 地域づくり基本計画 | 6 ページ |
| 1. 住民すべてが安心・安全な生活がおくれるよう、地域の力を結集して諸活動に取り組みます。 | 6 ページ |
| (1) 快適な生活ができるよう居住環境の整備・向上につとめます。 | |
| (2) 地域住民が相互のつながりを大切にし、生活に喜び・楽しみを感じられる地域づくりを進めます。 | |
| (3) 一人の犠牲者を出さないための災害に対する備えを、地域あげて取り組みます。 | |
| 2. 楽しく和気あいあいと生活できる地域を目指した取り組みを推進します。 | 9 ページ |
| (1) 地域活動の再構築を図り、地域の活性化を目指します。 | |
| (2) 交流事業を通じて、和気あいあいの地域づくりに努めます。 | |
| (3) 地域の歴史・文化に理解を深める活動を推進します。 | |
| V 計画の実施方法・期間 | 11 ページ |
| VI 計画の推進体制 | 11 ページ |
| VII 資料編 | 12 ページ |
| ・アンケート調査結果 | |
| ・佐世地区振興協議会会則 | |
| ・佐世地区振興計画の策定経過 | |
| ・佐世地区振興計画策定委員名簿 | |

第2次 佐世地区振興計画

はじめに

平成16年11月1日に、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町の6町村が合併し「雲南市」が誕生しました。

雲南市では、「市民が主役の自治のまち」を掲げ住民自治の推進を図ることとして自主組織育成に取り組み、平成17年度において佐世地区振興協議会は「地域自主組織の認定」を受けました。

その後、平成19年3月には「佐世地区振興計画」を策定し、少子高齢化・耕作放棄地の増加など地域としての課題を見据え地域としてどのようなことができるのか、佐世地区の将来像を描き取り組んで参りました。

しかし、合併から10年が経過した今日、地域の状況は少子高齢化の波が予想以上に速く、また地域福祉の重要性の高まりや防災対応など地域課題は多岐にわたる状況となりました。また、これまでの公民館組織から交流センターへの移行、事業内容の自主決定や職員の自主雇用など、これまでとは大きく変貌し、佐世地区としても第2次振興計画を策定する必要が生じてまいりました。雲南市におきましても「課題先進地」から「課題解決先進地」を目指し、「第2次雲南市総合計画」とそれによる元気な雲南市づくりをするための「まち・ひと・しごと総合戦略」を公表し、取り組みが始まったところです。

私たちは、第2次振興計画策定にあたり平成26年9月29日「佐世地区振興計画策定委員会」を立ち上げ、アンケート調査を実施し、調査結果をもとにそこから見える地域課題などについて検討し作業を進めてまいりました。

計画では、安心・安全な地域、住みたくなるような地域を目指し、

1. 住民すべてが安心・安全な生活がおくれるよう、地域の力を結集して諸活動に取り組みます。
2. 楽しく和気あいあいと生活できる地域を目指した取り組みを推進します。

この2本の柱により、地域づくりの計画としてまとめました。

I 計画の趣旨

少子高齢化やライフスタイル・価値観の変化などを背景に地域の結びつきが弱まりさまざまな問題が起きている今日、あらためて自分の住む地域の現状を見つめなおし、顔の見える関係づくりを進めていく必要があります。

住みなれた地域で安心安全に暮らしていくために、地域の中の様々な困りごとや不安を、住民同士が力を合わせ協力しながら解決していくため「**みどりあふれる中でなごやかに暮らせる郷 佐世**」をキャッチフレーズに第2次振興計画としてまとめ、この計画期間を平成28年度から平成32年度までの5カ年間といたしました。

II. 佐世地区の概況

1. 位置・面積・地勢

佐世は、東西3.16km、南北8.29kmで県道掛合大東線（師弟自治会内）付近で、くびれたひょうたん型をし、総面積14.74km²です。旧大字別にみると、西阿用が5.6km²、上佐世3.8km²、下佐世3.6km²、大ヶ谷1.5km²です。

標高は、加茂町境の立原橋が37.6m、佐世のほぼ中央にある神舞橋が58.9m、西阿用の元本郷公会所付近が141.2m、陰地地内三角点で311.7mです。

佐世地内のほとんどが花崗岩緑岩地域で、崩れやすい特質をもっており、昭和36年7月、39年7月の大災害で山崩れが多かったのはこのためであるといわれています。

また、佐世地区は、大東・木次・加茂の各中心部からほぼ等間隔の地に位置しているほか、松江市圏域、出雲市圏域の交差する地点であり、県下における工業集積のもっとも高い斐川地区を含め、両市へ約30km、車で約30分の地理的には大変恵まれた地区であるといえます。

2. 「佐世」の由来

出雲風土記（天平5年西暦733年完成）によると次のように記載されています。

〔佐世郷郡家正東9里200歩（5,800m）。古老傳云
須佐能袁命佐世乃木葉頭刺而踊躍為時所刺佐世木葉墮地故佐世〕

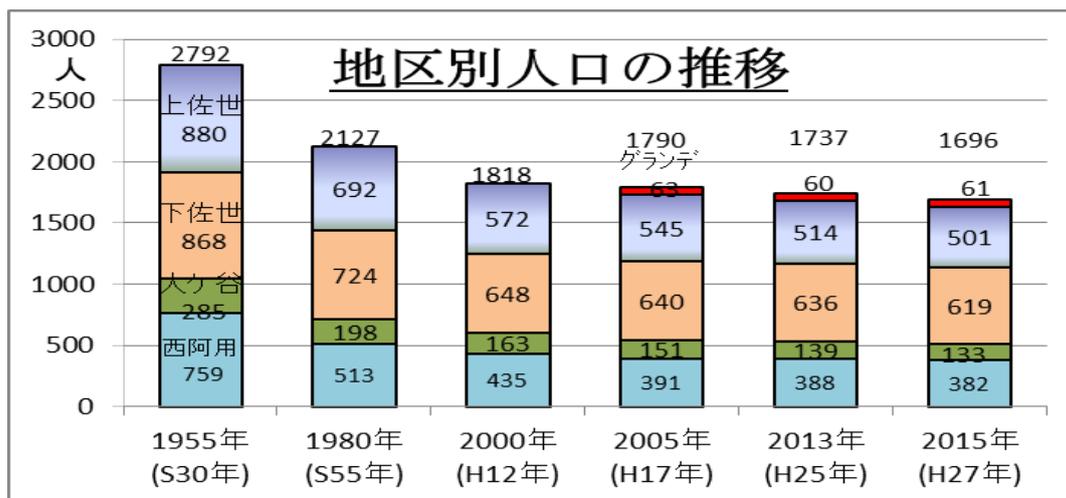
（須佐能袁^{すさのうのみこと}命が、佐世の木の葉を頭^{おど}刺して踊躍りたまふ時に、

刺せる佐世の木の葉、地^{かれ}に墮き。故、佐世といふ。）

佐世神社由緒---市道沿い石段横の石碑には次の通り記載されています。

〔延喜式神名帳並ニ風土記所載ノ神社ニシテ 上佐世下佐世両村ノ産土神トシテ明治四年郷社ニ列セラル。須佐能袁命八岐大蛇ヲ退治シテ後、欣喜ノ余リ稲田ヒメト神舞ヲナサレタ時、頭ニ刺シテイタ佐世ノ木ノ葉ガ落ちタ。命^{みこと}ハ地ニサセト申サレ刺シタ木ガ今ノ佐世ノ社ナリ、故ニ此ノ地ヲ佐世ト云フ。後、出雲八所八幡ノ一社、佐世八幡ヲ合祀シ崇敬サレテイル神社デアル。〕

3. 佐世地区の人口推移



4. 地域の生活の実態---アンケート結果から

- ①買い物や通勤・通学・通院など、日々の交通手段は、何を、どれくらいお使いですか？
- ②主な勤務先はどこですか？

| 項目 | ①よく使う ②時々使う ③使わない | | | 主な勤務地 | | |
|-------------------|-------------------|-----|-----|---------------|-------|--------|
| | 人数 | 人数 | 人数 | 人数 | 人数 | % |
| ア. 自分で運転する自家用車 | 778 | 28 | 119 | ①大東町 | 308 | 28.8% |
| イ. 家族が運転する自動車 | 137 | 399 | 255 | ②雲南市内(大東町を除く) | 207 | 19.3% |
| ウ. 近所の人運転する自動車 | 1 | 21 | 701 | ③奥出雲町・飯南町 | 11 | 1.0% |
| エ. デマンド(だんだん)タクシー | 4 | 17 | 709 | ④松江市 | 105 | 9.8% |
| オ. 市民バス | 14 | 52 | 670 | ⑤出雲市 | 81 | 7.6% |
| カ. タクシー | 13 | 119 | 609 | ⑥通勤・通学していない | 99 | 9.3% |
| キ. オートバイ | 23 | 41 | 681 | ⑦その他 | 46 | 4.3% |
| ク. 自転車、徒歩 | 68 | 182 | 486 | ⑧勤務していない | 213 | 19.9% |
| | | | | 合計 | 1,070 | 100.0% |

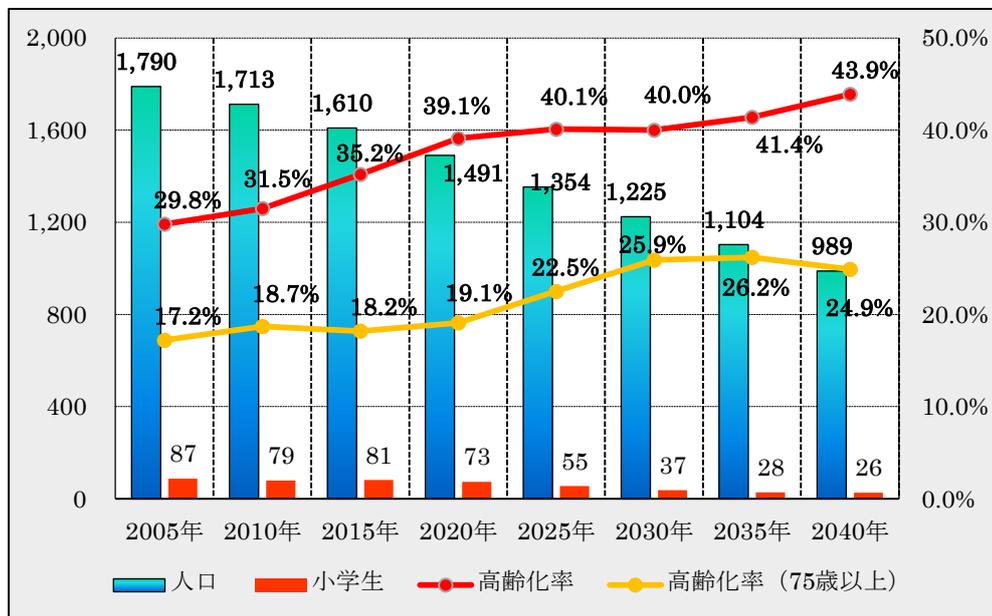
- ③日々の買い物は、主にどこでされますか？
- ④主に利用される医療機関はどこですか？

| 場所 | 人数 | % | 場所 | 人数 | % |
|---------------|-------|-------|-----------------|-------|-------|
| ①大東町 | 500 | 46.7% | ①雲南市立病院 | 324 | 30.3% |
| ②雲南市内(大東町を除く) | 362 | 33.8% | ②大東町内の開業医 | 270 | 25.2% |
| ③奥出雲町・飯南町 | 1 | 0.1% | ③平成記念病院(三刀屋) | 10 | 0.9% |
| ④松江市 | 68 | 6.4% | ④市内の開業医(大東町を除く) | 229 | 21.4% |
| ⑤出雲市 | 103 | 9.6% | ⑤松江の総合病院・開業医 | 94 | 8.8% |
| ⑥その他 | 22 | 2.1% | ⑥出雲の総合病院・開業医 | 87 | 8.1% |
| 空白 | 14 | 1.3% | ⑦その他() | 34 | 3.2% |
| 合計 | 1,070 | 100% | 空白 | 22 | 2.1% |
| | | | 合計 | 1,070 | 100% |

- 上記の結果から見ると、買い物、病院等への行動パターンは家庭内における自家用車利用が大勢を占めています。また、日常における行動範囲は大東町内を含めた雲南市内が中心です。
- 公共交通機関（市民バス、だんだんタクシー）の利用は現段階では高くはありませんが、今後高齢化が進むと公共交通機関の必要性は高まり、特に「だんだんタクシー」の重要度は増加します。

Ⅲ 佐世地域の課題

- (1) 島根県中山間地域研究センター（飯南町）が発表している田園回帰論に基づいて当地区の成り行きでの今後の人口予測を見ますと、次のグラフのような結果となります。2025年には人口は△15.9%の1,354人となり、75歳以上の高齢者は22.5%に達し、4.5人に1人となる見込みです。



- (2) 平成26年末のアンケート結果では、60歳以上の高齢者だけでお住いの方は148人で、回答者の14%を占めていました。特別養護老人ホームの入居基準が厳しくなることもあり、10年後は高齢者の1人暮らしの世帯・高齢者のみの世帯は今の2倍以上になり、全国の認知症患者は高齢者の5人に1人になるといわれています。
- (3) 近年は地球温暖化の影響などにより、予測もしないところで集中豪雨や地震・津波、さらには原子力災害が発生し、私たちの命を守るための対応が不可欠となってきています。防災活動においては「自助」が基本ではありますが、高齢化が進んだ現在では特に「共助」が重要視されるようになりました。自助、共助で対応できない事項については行政が対応すべきではありますが、緊急時には「公助」^{※3}には限界があり、地域内相互の助け合いがより重要となります。

※1 「自助」とは、家庭で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりするなど、自分で自分の命を守る事を言う。

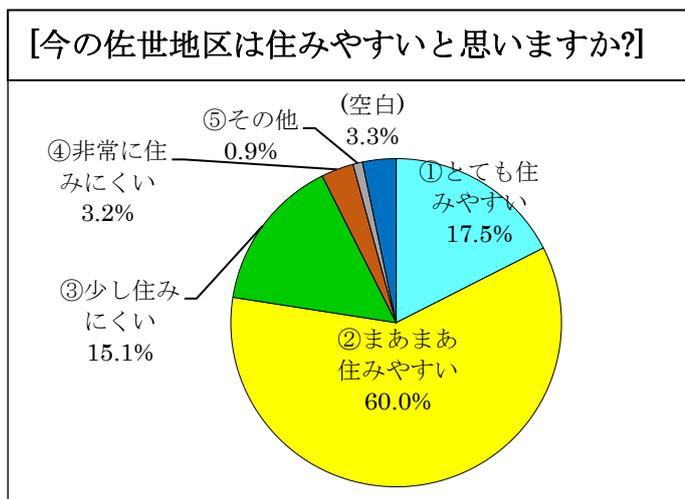
※2 「共助」とは、ご近所・自治会・地域相互の助け合い。

※3 「公助」とは、市役所や消防・警察などによる救助活動や支援物資の提供など、公的支援のこと。

- (4) 地区内住民の職業のうち、自営業・農林業専業16.4%、会社員・公務員・パート42.5%となっており、家事手伝い・無職の方を除くと大半の方が働きに出かけておられ、その勤務先は、市内が74.4%でその他は松江市・出雲市です。
- (5) 地区住民の、20歳から69歳のうち90%以上が運転免許証を所持しており、日々の交通手段の大半は自家用車です。70歳以上の方の運転免許証所持率は50%以下となっており、バスやタクシーを必要とする人が今後ますます増加すると思われます。

(6) 「今の佐世地区は住みやすいと思いますか？」とのアンケート結果は、「とても・まあまあ住みやすい」を合わせると77.5%となっており、かなりの方々がほぼ満足されていることがわかりました。

但し、自治会の在り方について、50%程度の皆さんが「将来成り立たなくなる」と回答されています。



(7) 40歳以上の人に対する「暮らしの中でどんな心配ごとや悩みを抱えていますか？」及び「今後の地域づくりは？」に対するアンケート結果は、次の通りでありました。

